

令和6年度 磐田市立磐田北小学校 学校評価書

重点	目標・取組	評価指標	自己評価	考察・改善策	学校関係者評価委員から
目標をもち、自己・他者・対象と対話し、学びを深める子供	本気で聴いて、つなげて考える子供	授業の内容がよく分かる 目標90%	A	【児童回答94%、保護者回答82%、教師回答97%】 児童の自己評価は高い数値が見られた。授業内で分かんたんと考えている子供が多く、教師が丁寧に指導している成果である。タブレットを日常的に扱うようになったため、授業のまとめや振り返り、ドリル学習として「eライブラリ」を有効に活用することができている。通常の漢字や計算ドリルに加えて実施し、学習内容の定着につながったと考える。しかし、定着が十分でない子供も見られるため、【知識・技能】を生かした学習活動を通して、【思考力・判断力・表現力】を育てていきたい。また、その過程において粘り強く取り組み、自ら学習を調整して【主体的に学習に取り組む】ことができるよう指導していく。 個に応じたきめ細やかな支援・指導ができたと感じている教員が多かった。今後も個に応じた支援・指導に配慮しながら、対話的で主体的に学ぶ授業を展開できるよう、授業研究や研修を進め、指導力向上を図る。	ICTを活用した授業にも慣れ、教師も児童も、タブレットを使った学習が自然にできている。授業を参観すると、教師が授業の工夫をしている様子がよく分かった。また、子どもの言葉に「なるほどね」とよく反応していた。教師が、児童の様子を見ながら個別に対応し、子供に寄り添った教育がされていると感じた。低評価の児童を大切にしていきたい。
		友達や先生の話をつかろうとして聞き、自分の考えと比べている 目標90%	A	【児童回答94%、保護者回答85%、教師回答97%】 コミュニケーション・トレーニングや授業での対話活動を通して、児童は話しを聴くことの大切さや自分の話を聴いてくれる喜びを感じている。そのため、自然と聞いて考えることができる。さらに、タブレット端末の活用で、自分の考えを表現したり、友達のことを知ったりすることで、自分の考えと比べながら話を聞くことができたことと自己評価した子供が多かった。タブレット端末の利用で、話すことが苦手な児童も考えを表現できたり、子供たち同士の共有が容易になったりしたことが大きな要因だととらえている。今後も自分の考えを積極的に表現し、より主体的かつ対話的な活動を大切に授業づくりを進めていきたい。	ICTの活用も必要だが、直接人前で声を出して伝えることが大切である。対話を大切にしたい。参観授業では、バランスよくできているように感じた。児童は対話を通して学ぶことで、説得力のある話ができる。今後も、対話を大切に授業づくりに取り組んでほしい。
よい自分を尊重する心をもち、正しく判断し、より	自分も人も大切にし、挨拶・返事のできる子供	周りにあるひと・ものを大切に、自分のよいところにも気付いている。 目標85%	A	【児童回答94%、保護者回答86%、教師回答97%】 子供たちは、学校へ通うこと自体を好意的に捉え、学級での生活も含め友達と楽しく過ごすことができていると考える。朝のあいさつ運動、委員会の企画活動、異学年との交流、地域での校外活動など、人との触れ合う機会も多く、児童はひと・ものとの関わり方を通して、日々考えながら成長している姿が見られる。いろいろな経験から失敗することもあるが、できないことを指導するばかりではなく、できたことや頑張ったことを認め励ますことを意識して指導していくことで自分のよさにももっとたくさん気付いてほしい。また、失敗から立ち直るレジリエンス力の向上に努めていくことが喫緊の課題であり、自己肯定感を高められるようによつば学府でのレジリエンス力強化の取り組みもより一層研修していく。	挨拶ができる児童が非常に多い。学校の取り組みが子供たちに浸透してきたことがうかがえる。いろいろな人に接することで感謝の気持ちも育っている。児童が学校をよりよくしようと取り組む姿がある。人との触れ合いを通して、温かい子供たちが育っていると感じた。
		学級にはお互いにルールを守り、協力する雰囲気がある 目標85%	A	【児童回答90%、保護者回答88%、教師回答97%】 異学年や学年間、地域の交流活動などが活発になり、児童同士のつながる場面も非常に多くなった。そのため、日々の学校生活から相手を思いやる雰囲気づくりやクラスのみんなで解決していこうとする取り組みができた。コロナ禍よりも人間関係が密接になったため、自分たちでどうすればいいのか考え、主体的に行動しようとする雰囲気も出てきたことで、教師の評価も向上したと考える。今後は、児童の数値向上に対し、そう感じていない児童がいることを意識し、大切に見守っていききたい。また、保護者の評価が昨年の75%から向上したことから、今後も児童の様子や学校の状況をより多く発信し、トラブル等の解決については保護者と早急に連携を図り、保護者とともに解決していくことを継続していきたい。	どの学年も落ち着いて授業をうけている。挨拶や環境整備などがよくできていると、主体的に活動する子供たちが育っていると感じた。低学年のトイレ改修工事をすれば、さらに落ち着くと考える。
		学校に楽しく通っている 目標90%	A	【児童回答90%、保護者回答91%、教師回答100%】 友達と共に過ごすこと、友達と共に学ぶことに大きな価値を見出す児童や保護者が多い。長期休み等があると、児童クラブに通っている子供たちからは、「早く学校へ行きたかった」「学校で勉強した方が楽しい」などの声も上がり、学校の重要性も感じた。ひと・ものとの関わり合う活動を増やしていくことでやりがいを見つけ、自分事として考えることで関わり合う力や楽しむ力が育つと考える。一方で、学校が楽しくないと思っている児童がいることも事実であるため、個に応じた支援も充実させていきたい。オンライン授業も可能になった現在であっても、対面して人とのつながりや対話を今後も大切にしていかなければならない。	子供たちは活気があり、生き生きと生活できている。授業では、自分の思いを自由に伝えられる環境があり、先生の声掛けも子供に寄り添っていてよかった。トイレがきれいになったことで、さらに生活しやすくなったように思う。
るいちし子、な困心や難身かにをな挑鍛心戦えをす合も	チャ目標に向かって子	健康な心と体づくりに向かって努力している 目標80%	A	【児童回答94%、保護者回答79%、教師回答94%】 運動会の学年団体競技に向けて練習に励んだり、持久走や短縄跳びで目標を決めて記録会に臨んだりする姿が多く、評価数値が高くなっていると考える。 しかし、明確に目標を設定して粘り強く努力する程度については児童によって個人差が見られるため、目標に向かって前向きに取り組めるよう体育カードを活用したり賞揚の方法を工夫したりしていく必要はある。また、保護者評価も児童や教師に比べ低いことから、情報を積極的に公開していくことや児童が保護者に伝えたいこと、見せたいことをより具体的に実践していくことが求められる。投てき板の活用は進んでいるが、さらに体力向上に向けて遊びたくなる道具や誰でも使える道具を用意して授業や休み時間に活用していくようにする。	いきいきと運動会、持久走記録会、短縄大会に参加していた。まとまりがあり元気よく活動していたよかった。あいさつや地域住民への声掛けなどが非常にできていて、とてもうれしく思う。トイレも新しくなり、衛生面も改善されてきているので継続したい。保護者への発信も、PTAと協力してやってほしい。

学校関係者評価を受けてのまとめ

挨拶や地域行事への参加など、地域の方々との触れ合いを通して、磐田北小の子供たちの良さはよく伝わっていることが分かった。今後も、対話を軸にどのように子供たちを育てていくかについて、教師も研修を通して研鑽していく必要がある。地域の一員として活躍できるように、子供一人一人に目を向け、自己肯定感を高められるような励ましの声を掛けていきたい。目標達成に向けての手立てを具体的に考えていくこと、さらに、教師の働き方改革についても、メンタルヘルスチェックの定期的な実施をしながら、実行可能な業務改善を続けていく。家庭・地域・学校で連携して子どもたちを見守り育てていくためにも、子供や保護者の意見を聞きながら、新しいことにチャレンジしたり工夫したりしていきたい。学校が保護者や地域に積極的に情報を発信し、より一層家庭と学校とのつながりを強くすることが今後必要になると考える。PTAとも連携しながら学校に関心をもってもらうための方策を検討していきたい。